

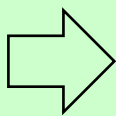
離農者が手放す農地を引き受け、地域の農地を守る ～ 株式会社 西部開発農産 ～

経営体の概要

事業前：平成18年

基幹作物：水稻、大豆、小麦、そば、
野菜、牧草

経営面積：448.8ha



現在：令和4年

基幹作物：水稻、大豆、小麦、そば、
野菜、牧草

経営面積：872.9ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

転作による小麦及び大豆の農作業受託を始めたことがきっかけで、年々受託面積が増加し、昭和61年に法人化した。現在の経営面積（872.9ha）は事業前（448.8ha）の約1.9倍に拡大している。

JGAP認証を取得し環境に配慮した農業を実践しており、更に自社産の農畜産物の加工品の商品化や直営飲食店を展開するなど6次産業化にも取り組んでいる。

国営かんがい排水事業による農業用水の安定供給により、水稻、小麦、大豆、そばを基幹作物とした大規模経営により、地域の農地を守り続けている。

営農改善のポイント

①経営規模の拡大

基本的に依頼された農地については断らないという考え方のもと、離農者が手放す農地を可能な限り引き受け、地域の農地を守り続けている。

②栽培技術の確立・向上、省力化

大豆2作後に、小麦、そばの二毛作による3年4作ブロックローテーションを実践。大豆では不耕起栽培、小麦では収穫前的大豆の畝間に播種する立毛間播種を行うことで、耕起等の作業を省略している。

大規模な農地を管理するため、大型機械への自動運転システムの導入、農業支援アプリケーションの活用のほか、農林水産省のスマート農業実証プロジェクトに参画し様々な実証試験を実施するなど、ICT技術を積極的に導入している。

③6次産業化

味噌や乾めん（うどん、そば、そうめん）といった加工食品を商品化し販売している。直営の飲食店では、自社産の農畜産物を使用した料理を提供するほか、店舗メニューをレトルト商品化し販売も行っている。



自動運転田植機による田植え



ライスセンター内の様子



加工食品の一例(レトルト商品)

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：北上市、花巻市及び胆沢郡金ケ崎町

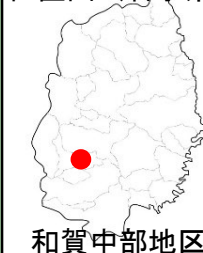
受益面積：3,392ha

事業期間：平成18年～平成28年

事業目的：用水改良

主要工事：頭首工2箇所、用水路6条（L=22.7km）
ダム取水口 等

位置図（岩手県）



和賀中部地区

<問い合わせ先>

東北農政局

農村振興部農地整備課

電話：022-263-1111

内線（4460, 4459）

（令和4年度調査時点）